

公共交通利用のきっかけを作る乗換案内サービスの開発

柴田 博彬 鳥取大学大学院工学研究科
川村 尚生 鳥取大学大学院工学研究科
伊藤 昌毅 鳥取大学大学院工学研究科
菅原 一孔 鳥取大学大学院工学研究科

a) 背景と目的

鉄道やバスを対象とした、乗換案内サービスが実用化されている。これらのサービスは公共交通の利便性を高めているが、公共交通の利用を決めた人が主な対象であり、移動手段を迷っている人や、移動そのものの動機を持たない人に対するアピールは不十分であった。

b) プロジェクトの内容

鳥取大学で開発している鳥取県のバス、鉄道を対象とした乗換案内サービス「バスネット」の新機能として、以下の機能を実現した。拡張現実を利用したバス案内機能：スマートフォンの拡張現実(AR)アプリケーションでバス停やバス経路を現実空間に重ねて表示することで、路線バスサービスへの気付きを促進し、同時にバス停への移動支援を実現する。経路にあわせた観光情報の提案機能：乗換案内の出力画面に、乗換情報に加えて乗換駅の付近や経路上などにある観光地やレストランなどの写真を加えた。提示した写真をクリックすることで、その場所を経由する経路情報が得られ、より有意義な移動が可能になる。ソーシャルメディアとの連携による公共交通利用促進機能：乗換案内サービスの使いやすさや、探索結果をソーシャルメディアへ公開する機能を持ったアプリケーションを開発し、公共交通利用の呼びかけを容易にする。

c) 効果

公共交通の利用に至るまでの気付きや動機付けの段階、公共交通利用中や利用後の段階を想定したサービス開発により、乗換案内サービスの守備範囲を拡張し、公共交通の利用促進に貢献するサービスの可能性を示した。

d) 結論

開発した機能はスマートフォン向けアプリケーションの機能として実現し、小規模な実験を行いながらその機能を検証している。今後、一般向けに公開し、より多くのユーザを対象にしながらサービスの評価と改良を進めてゆく。